

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970200174		
法人名	株式会社 ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	山梨ケアセンター そよ風		
所在地	山梨県山梨市上神内川15-5		
自己評価作成日	平成28年9月17日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を元に入居者様やご家族様の想いに寄り添い、入居者様の持っている可能性を最大限に引き出して行きたい。入居者様に関する情報をご家族、各専門職で共有し、より良いケアが提供できるよう努めている。ご本人、ご家族の希望と状態により、看取りケアを医師、看護師との連携を密に取り合いながら行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年10月3日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中央線山梨市駅の南側で専門学校、公立高校の付近に位置する事業所「山梨ケアセンターそよ風」は、同一建物内にショートステイ、通所介護の事業所があり、災害、看護師、合同レクリエーション、各委員会、研修会、ボランティア等の協力体制が取れている。介護度の高い利用者も多いが生活感が随所に見られる。106歳の利用者も活動的に生活している。職員は、お互いに注意し合える関係が出来ていて、新しい職員も明るく利用者へ接している。有給休暇と共にリフレッシュ休暇も取れ、意見や提案が自由に出せる本社のコールセンターの仕組みもある。利用者は、理念の「生き生き、にこにこ」した支援で毎日を穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

山梨ケアセンター そよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじの郷)	ユニット名(はぎの郷)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、フロア内に理念を掲示し、スタッフ一人ひとりが理念を念頭におきつつケアが行なえるよう努力している。また、入居者様、ご家族にも見ていただくことで、理念に基づくケアが実践されているか確認できるような仕組みづくりの工夫をしている。	玄関、フロア内に理念を掲示し、スタッフ一人ひとりが理念を念頭におきつつケアが行なえるよう努力している。また、入居者様、ご家族にも見ていただくことで、理念に基づくケアが実践されているか確認できるような仕組みづくりの工夫をしている。	「入居時、家族の思いを尊重し、生き生き介護 にこにこ介護をめざします」の理念を玄関、フロアに掲示している。日々のケアの中では、利用者一人一人の思いを職員間で共有し利用者が、役割を持って生活出来るよう常に理念に基づいた支援に心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	区長さん、民生委員さん、近隣の幼稚園、保育園、小、中、高、専門学校生、傾聴ボランティア、歯科医院、耳鼻科医院、皮膚科医院、病院、薬局等とつながりをもち積極的に交流している。	区長さん、民生委員さん、近隣の幼稚園、保育園、小、中、高、専門学校生、傾聴ボランティア、歯科医院、耳鼻科医院、皮膚科医院、病院、薬局等とつながりをもち積極的に交流している。	建物内に併設のショートステイ、通所介護と一緒に園児を招いて交流を図ったり、傾聴ボランティア4・5名が毎月来所している。地域の祭りに参加、駅前のおし物の見学、散歩を兼ねて近所の商店街に買い物に行く等、地域の人と触れ合う機会を多く持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小、中、高、専門学校生、傾聴ボランティアの方が来所した時に認知症を理解して頂き、支援の方法を伝える事で地域の実習施設としての役割の一部を担っている。また、スタッフ(2名)も認知症キャラバンサイトの研修を受け、地域の方が認知症の理解を深める活動に参加している。	小、中、高、専門学校生、傾聴ボランティアの方が来所した時に認知症を理解して頂き、支援の方法を伝える事で地域の実習施設としての役割の一部を担っている。また、スタッフ(2名)も認知症キャラバンサイトの研修を受け、地域の方が認知症の理解を深める活動に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の心身状態の報告、緊急時、看取り時、普段からの医師、ご家族、多職種との連携の様子を報告している。それをもとに話し合い、挙げられた意見を日々のケア、サービス向上に活かしている。	入居者様の心身状態の報告、緊急時、看取り時、普段からの医師、ご家族、多職種との連携の様子を報告している。それをもとに話し合い、挙げられた意見を日々のケア、サービス向上に活かしている。	2か月毎に平日の17時から開催している。事業所からの報告と、参加メンバーから日々の散歩や傾聴ボランティアの現状について等の質問があった。民生委員からは祭りの参加への誘い、看取りへの意見・要望があり、双方向的な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者に居室の空き情報を伝える際に、そよ風のケアに関する事などを伝えている。市町村からも入居に関する問い合わせや相談などがあり、市町村との関係を築いている。	市町村の担当者に居室の空き情報を伝える際に、そよ風のケアに関する事などを伝えている。市町村からも入居に関する問い合わせや相談などがあり、市町村との関係を築いている。	市町村からの相談、事業所からの相談等相互に向いて連絡を深めている。「市の居宅ケアマネジャー連絡会議」に参加して市町村職員やケアマネジャーと情報を共有して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議や研修、必要時カンファレンスを開き身体拘束について勉強、検討している。身体拘束を行わないケアが基本ではあるが、やむを得ない場合は、ご家族に報告し同意書を頂き、近況報告を随時行っている。	フロア会議や研修、必要時カンファレンスを開き身体拘束について勉強、検討している。身体拘束を行わないケアが基本ではあるが、やむを得ない場合は、ご家族に報告し同意書を頂き、近況報告を随時行っている。	「身体拘束防止委員会」を3セクション(デイサービス・ショートステイ・グループホーム)で開催し具体的事例の中から共有し工夫して支援している。駅に近く踏切もあるので玄関は施錠しているが、玄関に利用者の座る椅子を置いたり、一緒に外に出る様にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議、フロア会議において虐待について研修を行い、虐待防止に向け取り組んでいる。スタッフ本人が気付かないうちに、虐待ではないかと思われる行為をしてしまっている時には声をかけ指導している。	全体会議、フロア会議において虐待について研修を行い、虐待防止に向け取り組んでいる。スタッフ本人が気付かないうちに、虐待ではないかと思われる行為をしてしまっている時には声をかけ指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、スタッフが権利擁護の研修会に出席し、日常生活自立支援に関する事や、青年後見制度について学び、必要時活用できるようにしている。	管理者、スタッフが権利擁護の研修会に出席し、日常生活自立支援に関する事や、青年後見制度について学び、必要時活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際には、入居者様、ご家族の不安や疑問を聞き、説明し、理解してもらえるよう関わっている。	契約の締結、解約の際には、入居者様、ご家族の不安や疑問を聞き、説明し、理解してもらえるよう関わっている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

山梨ケアセンター そよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじの郷)	ユニット名(はぎの郷)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者・家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議等にご家族の出席を仰ぎ、意見を頂く機会を設けている。また、普段から密に情報交換を行い、面会時など、意見要望、本音を言いやすい環境を作っている。頂いた意見、要望は職員で共有し、それを踏まえたケアが実践できるようにしている。	家族会、運営推進会議等にご家族の出席を仰ぎ、意見を頂く機会を設けている。また、普段から密に情報交換を行い、面会時など、意見要望、本音を言いやすい環境を作っている。頂いた意見、要望は職員で共有し、それを踏まえたケアが実践できるようにしている。	家族会や、年1回の書面アンケートで家族からの意見・苦情等表せる機会や場を設けている。職員は「意見・要望・苦情ノート」を作り、日々の利用者の状態から吸い上げてミーティングで検討して反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する事はフロア会議などでスタッフに伝えている。会議の中でスタッフの意見を聞き、全員で検討。抽出した意見を全体会議などでセンター長に伝え、共有し必要な意見は運営に反映させている。	運営に関する事はフロア会議などでスタッフに伝えている。会議の中でスタッフの意見を聞き、全員で検討。抽出した意見を全体会議などでセンター長に伝え、共有し必要な意見は運営に反映させている。	契約更新時に面談して意見・要望を聞く機会を持っている。職場の人間関係が良く、有給休暇・リフレッシュ休暇等の希望も取れる環境にある。また本社の直接コールセンターの電話番号が貼られてあり、本社へも苦情や相談が自由出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフ一人ひとりが、やりがいを持って働けるよう、管理者やスタッフと話し合いを持っている。	代表者は、スタッフ一人ひとりが、やりがいを持って働けるよう、管理者やスタッフと話し合いを持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設内の年間研修計画を立案すると共に、施設外への研修へ積極的に参加するよう促し、働きながらもスタッフそれぞれがスキルアップできるよう努めている。	代表者は施設内の年間研修計画を立案すると共に、施設外への研修へ積極的に参加するよう促し、働きながらもスタッフそれぞれがスキルアップできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者やスタッフが同業者と交流する事を勧めており、地域ネットワーク作りや勉強会への出席や相互訪問などの活動を通してサービスが構築できるようにしている。	代表者は管理者やスタッフが同業者と交流する事を勧めており、地域ネットワーク作りや勉強会への出席や相互訪問などの活動を通してサービスが構築できるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人の想いが十分表出できるよう言葉をかけ、表情や発言、心身状態の観察を細やかにを行い、困っている事、必要としている事を抽出し、本人との関係が早期に築けるよう努力している。	サービスを導入する段階で、本人の想いが十分表出できるよう言葉をかけ、表情や発言、心身状態の観察を細やかにを行い、困っている事、必要としている事を抽出し、本人との関係が早期に築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等の想いが表出できるよう話し合いを持ち、情報収集につとめ、発言、表情の観察を細やかに言い言葉に出来ない想いを察するように努め、ご家族との関係が早期に築けるよう努力している。	サービスを導入する段階で、家族等の想いが表出できるよう話し合いを持ち、情報収集につとめ、発言、表情の観察を細やかに言い言葉に出来ない想いを察するように努め、ご家族との関係が早期に築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、ご本人、ご家族の想いを聞き、同一施設内にあるショートステイの利用を提案した。その方は現在、ショートステイを利用している。	サービスを導入する段階で、ご本人、ご家族の想いを聞き、同一施設内にあるショートステイの利用を提案した。その方は現在、ショートステイを利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の想いに寄り添い、喜怒哀楽を共有し、スタッフは入居者様を介護される側に置かず、暮らしをともにする者同士の関係を築くようにしている。	入居者様の想いに寄り添い、喜怒哀楽を共有し、スタッフは入居者様を介護される側に置かず、暮らしをともにする者同士の関係を築くようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

山梨ケアセンター そよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじの郷)	ユニット名(はぎの郷)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○家族からの支援は入居者様にとって大きな喜びであり、ご家族も入居者様の支えになっていることが喜びである。情報の共有を密に行い、ご本人とご家族の今までの関係を大切に、日々のケアを行っている。	○家族からの支援は入居者様にとって大きな喜びであり、ご家族も入居者様の支えになっていることが喜びである。情報の共有を密に行い、ご本人とご家族の今までの関係を大切に、日々のケアを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が今まで大切にしてきた馴染みの方が面会しやすい環境を作り、居室にてゆっくり過ごせるよう配慮している。	入居者様が今まで大切にしてきた馴染みの方が面会しやすい環境を作り、居室にてゆっくり過ごせるよう配慮している。	昔から利用している美容院に行く、週1回家に猫を見に行く、馴染みの知人友人が通所介護所に来た際に部屋に来るなどしている。家族と温泉やショッピングに出かけたり、自宅での姉妹会に行く等、一人ひとりの思いを把握し継続的な交流ができるように支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、フロアでの座席を配慮し、入居者様同士が関わり、支え合えるような支援をしている。	入居者様同士の関係を把握し、フロアでの座席を配慮し、入居者様同士が関わり、支え合えるような支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族が来所された際には近況を聞き、必要に応じた支援をさせていただきます…とお伝えしている。	契約終了後も、ご家族が来所された際には近況を聞き、必要に応じた支援をさせていただきます…とお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行などにより会話が難しい方、言葉に出来ない思いを持っておられる方の表情、言動の観察を細やかにを行い、言葉をかけ、話を引き出すこと等で、入居者様の気持ちに寄り添うケアができるよう努力している。	認知症の進行などにより会話が難しい方、言葉に出来ない思いを持っておられる方の表情、言動の観察を細やかにを行い、言葉をかけ、話を引き出すこと等で、入居者様の気持ちに寄り添うケアができるよう努力している。	「家に行きたい」というお話が多い時は家族に伝え、協力を願ったり、職員が付き添って家の近くまで行くなどしている。困難な利用者は、一寸した言葉や表情、行動などから個々の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が決まった時点で、生活歴、入居前の暮らし、ご家族との関わり方などを調査し、スタッフ全員で共有、入居後も会話や日々の関わり、ご家族からの聞き取りなどで情報収集を絶えず行っている。	入居が決まった時点で、生活歴、入居前の暮らし、ご家族との関わり方などを調査し、スタッフ全員で共有、入居後も会話や日々の関わり、ご家族からの聞き取りなどで情報収集を絶えず行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの入居者様にチームとして関わる中で、表情や、言動の観察を細やかにを行い、スタッフ間で情報共有し日々のケアに活かしている。	一人ひとりの入居者様にチームとして関わる中で、表情や、言動の観察を細やかにを行い、スタッフ間で情報共有し日々のケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとりのケア会議をスタッフ全員で毎月、担当者会議も定期的に行っている(必要な関係者からは事前に聞き取り実施)。そこでケアの評価、今後のケアの方針、課題などをスタッフ間で共有し入居者様の現状に即した介護計画立案に向けて努力している。	入居者様一人ひとりのケア会議をスタッフ全員で毎月、担当者会議も定期的に行っている(必要な関係者からは事前に聞き取り実施)。そこでケアの評価、今後のケアの方針、課題などをスタッフ間で共有し入居者様の現状に即した介護計画立案に向けて努力している。	モニタリングは、担当職員が毎月実施している。ケアマネジャーがそれを集約して家族・本人の意向を聞き定期的に介護計画を作成している。また、毎月のケア会議後や利用者に変化があった場合は、その都度計画を変更して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりの記録を分かりやすい形で記載することで、ケアの実践、評価、気づきなどをスタッフ間で共有し入居者様の現状に即したケアが提供できるよう努力している。	入居者様一人ひとりの記録を分かりやすい形で記載することで、ケアの実践、評価、気づきなどをスタッフ間で共有し入居者様の現状に即したケアが提供できるよう努力している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

山梨ケアセンター そよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじの郷)	ユニット名(はぎの郷)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が求めているものは何かニーズを見極め、柔軟なサービスが出来るよう取り組んでいる。	入居者様が求めているものは何かニーズを見極め、柔軟なサービスが出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、近隣の幼稚園、保育園、小、中、高、専門学校、歯科、耳鼻科、皮膚科医院、病院、薬局、消防署、商店、民生委員、ボランティアの方々の力を借りている。	地域包括支援センター、近隣の幼稚園、保育園、小、中、高、専門学校、歯科、耳鼻科、皮膚科医院、病院、薬局、消防署、商店、民生委員、ボランティアの方々の力を借りている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の希望がある場合はご本人とご家族の意向を確認し、継続的な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の希望がある場合はご本人とご家族の意向を確認し、継続的な医療が受けられるよう支援している。	内科主治医が、月1回の往診と必要時対応をしている。歯科医は月1回の往診希望者対応、歯科衛生士は週1回の訪問がある。本人や家族が希望するかかりつけ医への受診は家族対応が基本で情報はメモや口頭で伝え、記録は「付箋」を付けて職員間で共有している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来ている。訪問看護師がいない時は施設内他セクションの看護師と連携を取っている。介護と看護で連携を密にし適切な医療や看護が受けられるようにしている。	週1回訪問看護師が来ている。訪問看護師がいない時は施設内他セクションの看護師と連携を取っている。介護と看護で連携を密にし適切な医療や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際には看護サマリーにより情報提供をし、ご本人に適切なケアが受けられるようにしている。又、入院による機能低下が最小限で済むよう病院関係者と話し合いをもったり、入院中面会に行くようにしている。	入院する際には看護サマリーにより情報提供をし、ご本人に適切なケアが受けられるようにしている。又、入院による機能低下が最小限で済むよう病院関係者と話し合いをもったり、入院中面会に行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、ご本人に看取りの希望があれば、早期の段階でご家族、かかりつけ医と今後の意向を確認し、日々変化する状態に対し、ご家族、医師、看護師、スタッフで情報の共有を密に行い、終末ケアで何を行って行くのか検討している。	ご家族、ご本人に看取りの希望があれば、早期の段階でご家族、かかりつけ医と今後の意向を確認し、日々変化する状態に対し、ご家族、医師、看護師、スタッフで情報の共有を密に行い、終末ケアで何を行って行くのか検討している。	入居時「看取り指針・マニュアル」を示し契約時本人家族の意向を確認して看取りの契約を取っている。家族からの希望があれば看取り時には宿泊も可能という事も話している。9月末に107歳の利用者の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講し、急変時の対処方法を整えている。また、急変に備え予測される対処方法、ご家族、各専門職の連携について職員が実践出来るよう、フロア会議で話し合いをしている。	普通救命講習を受講し、急変時の対処方法を整えている。また、急変に備え予測される対処方法、ご家族、各専門職の連携について職員が実践出来るよう、フロア会議で話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜勤帯想定避難訓練を実施し、災害や火災時に備えている。また、地域の消防署、消防団との連携も取っており、去る9月15日には山梨消防署と連携し、夜勤帯想定火災時避難訓練を行った。	日勤帯、夜勤帯想定避難訓練を実施し、災害や火災時に備えている。また、地域の消防署、消防団との連携も取っており、去る9月15日には山梨消防署と連携し、夜勤帯想定火災時避難訓練を行った。	月1回フロアごとの避難訓練を行っている。9月に消防署の協力で夜間想定火災訓練を実施した。夜勤専門の職員には、避難計画書、実施記録を資料提供している。	9月15日に消防署と夜間を想定した訓練を実施しているが、今後は毎月の避難訓練に夜間を想定した訓練を多く取り入れて夜間勤務を行う職員が、全員火災避難訓練を行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアで入居者様の自尊心やプライバシーを守る言葉かけや対応を心がけている。また、日々のケアの中でスタッフ同士の良くない所はお互いに注意しながら、尊厳やプライバシーを守るケアを続けていく。	日々のケアで入居者様の自尊心やプライバシーを守る言葉かけや対応を心がけている。また、日々のケアの中でスタッフ同士の良くない所はお互いに注意しながら、尊厳やプライバシーを守るケアを続けていく。	利用者の気持ちを尊重する支援に励んでいる。職員が「生き生き・にこにこ」していないと利用者との関わりの中で言葉に出てしまうと考え、職員の間関係に配慮している。また、排泄時はプライバシーに注意している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

山梨ケアセンター そよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじの郷)	ユニット名(はぎの郷)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話が出来ない入居者様や、想いを上手く表出できない入居者様に関しては、表情、言動の観察、言葉かけを行い、想いを察し、何をしたいのかなど、自己決定できるよう支援している。	会話が出来ない入居者様や、想いを上手く表出できない入居者様に関しては、表情、言動の観察、言葉かけを行い、想いを察し、何をしたいのかなど、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や買い物、外出など、希望があった時には、入居者様の想いを聞き、その日の過ごし方を入居者様と話し合い決めるようにしている。	入浴や買い物、外出など、希望があった時には、入居者様の想いを聞き、その日の過ごし方を入居者様と話し合い決めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など好みの物を選んでいただいている。	洋服など好みの物を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しい時間となるよう入居者様の残存能力を活かし、調理、配膳、食事、片付けなど一連の流れをスタッフとともにやっている。	食事が楽しい時間となるよう入居者様の残存能力を活かし、調理、配膳、食事、片付けなど一連の流れをスタッフとともにやっている。	昼・夜食の食材は、センターの厨房で一括購入している。皮むき、盛り付け、テーブル拭き、下膳等利用者個々の力を活かしながら職員が一緒に行っている。食事前に献立を読み上げて職員も一緒に席で食べている。外食や「美食の日」の企画もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況、体重の増減、好みなどを配慮し、健康維持に必要な量(食事、水分)、栄養バランスが1日を通して摂れるようにしている。	一人ひとりの身体状況、体重の増減、好みなどを配慮し、健康維持に必要な量(食事、水分)、栄養バランスが1日を通して摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の口腔状態に合わせ、毎食後、口腔ケアを行っている。また、ご本人、ご家族の希望があれば定期的な歯科往診、歯科衛生士訪問を取り入れ、口腔ケアの充実に努めている。	入居者様の口腔状態に合わせ、毎食後、口腔ケアを行っている。また、ご本人、ご家族の希望があれば定期的な歯科往診、歯科衛生士訪問を取り入れ、口腔ケアの充実に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄する事を基本にしている。オムツを使用する際には、排泄パターンを把握し、その方に適したオムツの選定、交換を行っている。	トイレで排泄する事を基本にしている。オムツを使用する際には、排泄パターンを把握し、その方に適したオムツの選定、交換を行っている。	リハビリパンツや尿取りパット類は、各利用者に合わせて検討し、排泄パターンを把握して誘導している。夜間、排泄の回数が多いがトイレにを使用する利用者もいる。布パンツで生活している利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因究明に努め、把握し、個々の便秘解消に対する支援を行っている。具体的には牛乳の量や飲む時間を調整している。	便秘の原因究明に努め、把握し、個々の便秘解消に対する支援を行っている。具体的には牛乳の量や飲む時間を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には毎日入浴が望ましいが、年齢的なものや体調により毎日入浴出来ない方もいらっしゃる。年齢や体調、ご本人の意思に合わせ、週に最低2回は入浴出来るようにしている。入浴時間は健康に影響を及ぼさない範囲で本人のペースに合わせるようにしている。	基本的には毎日入浴が望ましいが、年齢的なものや体調により毎日入浴出来ない方もいらっしゃる。年齢や体調、ご本人の意思に合わせ、週に最低2回は入浴出来るようにしている。入浴時間は健康に影響を及ぼさない範囲で本人のペースに合わせるようにしている。	毎日午前中に入浴を行い、午後は希望者のみ入浴している。入浴が苦痛にならない言葉かけや対応の工夫をしている。勤務表の工夫や、希望で同姓介護もしている。季節に合った入浴剤を使っている。また、シャンプー、リンス、石鹸は希望に沿った対応をしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

山梨ケアセンター そよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじの郷)	ユニット名(はぎの郷)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの状態に合わせて、自分の想いを表出できない方には、表情、言動の観察、言葉かけを行い、ご本人の状況を見極め臥床を勧めている。夜間は熟睡できる環境整備をしている。	入居者様一人ひとりの状態に合わせて、自分の想いを表出できない方には、表情、言動の観察、言葉かけを行い、ご本人の状況を見極め臥床を勧めている。夜間は熟睡できる環境整備をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が確実に内服できるようスタッフが支援している。内服の効果が確実に表れているか、副作用はないかなど、スタッフ全員で確認し、各専門職との連携も密に取りあっている。	入居者様が確実に内服できるようスタッフが支援している。内服の効果が確実に表れているか、副作用はないかなど、スタッフ全員で確認し、各専門職との連携も密に取りあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様、一人ひとりに合った役割を職員とともにを行い、楽しみや達成感などを共有している。	入居者様、一人ひとりに合った役割を職員とともにを行い、楽しみや達成感などを共有している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力も得ながら、ご本人の希望に添い日常的に外出できるようにしている。	ご家族の協力も得ながら、ご本人の希望に添い日常的に外出できるようにしている。	職員と食材購入や買い物等に出掛けている。季節によって花見、新緑・紅葉ドライブ、外食などに出かける。日常の散歩は少ないが、洗濯物を干すなど外気に触れる機会は多く持つ工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様がお金を所持する事で安心感を感じる事をスタッフも理解している。買い物の希望がある時には職員と相談し買い物に行っている。預り金に関してはご家族、ご家族と話し合い規定に基づく管理、報告をしている。	入居者様がお金を所持する事で安心感を感じる事をスタッフも理解している。買い物の希望がある時には職員と相談し買い物に行っている。預り金に関してはご家族、ご家族と話し合い規定に基づく管理、報告をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時にはできるようプライバシーに配慮し支援している。また手紙も同様である。	電話をしたい時にはできるようプライバシーに配慮し支援している。また手紙も同様である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、採光などを管理し居心地良い環境づくりの工夫をしている。季節感のある空間になるよう季節の花、植物、展示物をフロアに飾りしている。月ごとに壁面製作を入居者様と製作し飾り、共同作業の喜びも感じている。	温度、湿度、採光などを管理し居心地良い環境づくりの工夫をしている。季節感のある空間になるよう季節の花、植物、展示物をフロアに飾りしている。月ごとに壁面製作を入居者様と製作し飾り、共同作業の喜びも感じている。	ホールは広くテレビ前のソファは大型でゆったりしている。家族から送られたという胡蝶蘭がひときわ目を引く。子どもの等身台の人形が利用者と座っている。台所が対面式で料理する音やにおいによる生活感がある。腕時計やネイルアート、首に素敵なショールをまくなどのお洒落をしてをしている利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを置いたり、座席の移動を自由に行えるようにしたりと、気分転換できる居場所の工夫をしている。	共用空間にソファを置いたり、座席の移動を自由に行えるようにしたりと、気分転換できる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中には、入居者様やご家族と相談し、使い慣れたテレビや家具、家族の写真なども置き、少しでも居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	居室の中には、入居者様やご家族と相談し、使い慣れたテレビや家具、家族の写真なども置き、少しでも居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	利用者の使いやすい馴染みの筆筒、時計、洋服タンスなどが置かれている。趣味の習字や家族の写真が飾られ、100歳のお祝いでドレス姿で笑顔のポーズをとった106歳の利用者の写真も貼ってあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要なところには手すりを設置し、段差の解消などフロアの安全に配慮している。壁面にはカレンダー、時計の設置をしている。トイレは分かりやすく明示している。居室にも入口に名前を貼るなどして分かりやすい工夫をしている。	必要なところには手すりを設置し、段差の解消などフロアの安全に配慮している。壁面にはカレンダー、時計の設置をしている。トイレは分かりやすく明示している。居室にも入口に名前を貼るなどして分かりやすい工夫をしている。		